

## 第2回隠岐地域水産物の島内流通検討会 【議事概要】

### 1. 議論の整理

#### ○ 第1回検討会のまとめを以下のとおり行った

- (1) 漁業者、流通・商工観光関係者、行政のいずれからも、隠岐で水揚げされた水産物の島内流通を拡大することに対して、前向きな意見や積極的な姿勢が示された。
- (2) 一方、現状で島内流通が拡大しない要因・背景として、
  - ① 小売事業者等の規模が小さいため、大きなロット（箱買い等）の取引には売れ残りの問題もあり対応できない
  - ② 取引価格が境港価格をベースに事後的に決定するという仕組み（慣行）がある
  - ③ 盆や夏枯れ時期などをはじめ、島内水揚げ量の変動が大きい側面もあり、計画的・安定的な調達が難しい

といった諸々のリスクがあることが明らかになった。

- (3) また、島内流通の拡大に当たっては、取引の当事者の経営に悪影響を及ぼすことがない（可能であれば収益向上につながる）よう留意する意見が複数あった。

### 2. 今後の検討方向

#### ○ 以下について議論し、認識を共有した

- (1) 離島という地域の特徴や島内事業者の現況、漁業そのものの特性（不確実性）等を考慮すると、島外（大規模市場）からの仕入れが大半を占めている流通は、ある意味合理的（ベター）なものとなっている。
- (2) このような中で、観光や地域活性化への効果を見据えて島内流通を拡大しようとするれば、拡大に伴うリスクを分散し、関係者が皆で広く薄くリスクを共有することを許容することが前提となる。
- (3) また、各当事者の経営を考えれば、「流通の拡大」と「安価での仕入れ・提供」を一举両得で実現することは出来ないことも念頭に置く必要がある。
- (4) その上で、本検討会では、今後、以下について議論してはどうか。
  - ① 当面の目標とする島内流通量
  - ② 目標を達成するために新たに導入する新たな仕組み・取組み